

# 活動報告書

報告者氏名：佐藤久住

所属：大分県立南石垣支援学校

記録日：2013年 1月18日

## 【対象児（群）の情報】

- ・学年 中学部 24名
- ・障害名 主たる障害：知的障がい
- ・障害と困難の内容

知的障がい主たる障がいであるが、その実態や特性は様々な24名の集団である。これまで運動会や宿泊学習などに共に取り組み、とても仲がよく協力して活動する姿も見られるようになった。ただ、リーダー的な存在の生徒が少なく、自分たちで主体的に活動する姿があまり見られない。常に教師からの声かけを待っていたり、すぐ手助けを求めようとしたりすることが多く、依存心の強さや自己肯定感の低さが課題である。

## 【活動目的】

- ・当初のねらい

教師の手助けがなくても、iPadや地図、案内表示を頼りにすることで、自分たちの力だけでできるということを体験させ、自信や自己肯定感を高めることを目的とした。

- ・実施期間

10月18日

- ・実施者

中学部教員

- ・実施者と対象児の関係

担任

## 【活動内容と対象児（群）の変化】

- ・対象児（群）の事前の状況

中学部では昨年も、遠足にオリエンテーリングを取り入れている。ただ森林公園で行ったため、地図や表示などのヒントが不十分で、教師の声かけや手助けが多く必要であった。しかし、ポイントを見つけた時の喜びや友だちと一緒に協力して取り組む楽しさを経験している。

- ・活動の具体的内容

中学部行事の「秋の遠足」で鉄輪温泉街を訪れた。鉄輪温泉は別府市内でも随一の観光地で、地獄巡りや地獄蒸し、多くの共同温泉や石畳の路地裏など生徒たちにとっても興味深い場所である。また古くからの観光地ということで観光マップや案内表示がわかりやすく、交通量もさほど多くないことから生徒たちが散策するには適した場所である。

生徒たちは5人程度の班で活動し、この温泉街の中で「〇〇地獄」や「〇〇温泉」などのポイントを探して回るオリエンテーリングを行った。

5人はそれぞれ、iPadを操作し「指令」を探すiPad係、観光マップを持つ地図係、カメラ係などの役割を持ち、5人で協力しながらポイントにある「指令」をクリアして行った。

iPadには、powerpointで作成したものをKeynoteに変換し修正したオリエンテーリングマップを示した。最初のページが開いた状態でiPadを受け取った生徒は、班のメンバーやルールと決まり、日程やバスの時刻などを、それぞれの項目をタップして確かめた後、「地獄マップ」「鉄輪マップ」をタップして、地図を見ながらオリエンテーリングをスタートした。

それぞれの「マップ」には、いくつかのポイントが示されており、生徒がそれをタップすると、「指令」のページが開くようになっている。

「指令」には、「山地獄でカバの昭平君の写真を撮れ」「鬼山地獄のワニは何匹いるでしょうか」「写真と同じ場所で記念写真を撮ろう」などがあり、生徒たちは班の仲間と協力してクリアしていく。



教師たちは生徒の安全面に配慮した上で、手助けやアドバイスすることを極力避けながら見守る姿勢を貫いた。生徒たちにも、全てのポイントクリアすることをめざすのではなく、iPadや地図・表示を頼りに、自分たちの力で活動することの大切さを伝えた。

**鬼坊主地獄 (おにいしばうずじごく) へ、ようこそ!**

指令 (しれい) ①  
このおんなのひとをみつけて、足湯の場所をきこう

指令 (しれい) ②  
みんなで足湯につかる。そして、足湯につかったままみんなできねんしゃんをとろう。

先生もいっしょにね◎

**蒸し湯 (むしゆ) へ、ようこそ!**

指令 (しれい) ④  
かなわー④

入浴料は「いくら」でしょうか?

また「指令」の中には、「この人を見つけて聞く」「誰かに聞かなければわからない」問題もいくつか取り入れ、生徒たちが、教師ではない地域の大人の人とコミュニケーションをとり、支援してもらおうという状況も設定した。iPadや地図・表示といった道具だけでなく、「困ったときには誰かに聞けばでき

る」という経験も、「自分たちの力でできた」という自信につながると考えた。

・対象児 (群) の事後の変化

全ての「指令」をクリアできた班はなかったが、どの班も「自分たちの力で、ここまでできた」という自信に満ちた顔で学校に帰ってきた。

iPadという1つの道具を使うことで、「協力する大切さ」「挑戦する面白さ」など、たくさんのことを学ぶことができた遠足になったように感じた。



【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

鉄輪温泉散策は、自分たちが住んでいる地域について知るとともに、観光地を友だちと一緒に旅するという将来の生活への夢や希望につながる活動であった。

昨年までの森林公園でのオリエンテーションでは、教師が現地での十分な下見を行い、チェックポイントの設置や手作り地図の作成、生徒たちに持たせる「オリエンテーリングマップ」の印刷・製本など、多くの準備作業が必要であった。また、紙のマップでは十分な情報が載せられず、めくる・探すなどの操作も難しいため、生徒たちだけでの活動に困難な点が多かった。

そこで、「オリエンテーリングマップ」をiPad (Keynote) で作成することで、多くの情報や支援となるヒントを盛り込むことができた。生徒も必要な情報やヒントを簡単な操作で探し出すことができた。それぞれのiPadへのコピー・修正も容易であるため、班の構成や実態に合った「マップ」を提供することもできた。

生徒には、絵カードなどの紙の冊子ではなく、iPadを持つことで「カッコいい」という意識を持ち、「これがあればできる」という気分になり、それが自信にもつながったようだ。

・エビデンス（具体的数値など）

鉄輪温泉街での活動時間は、昼食時間を除くと3時間に満たなかった。その時間に16箇所のポイントをクリアしていくオリエンテーリングだった。一番多くクリアした班でも13箇所だったが、それぞれのメンバー構成によって、ねらうポイントや歩くコースを話し合うって決める様子が見られた。途中で諦める班もなく、昼食後の1時間弱の短い時間でもポイントを探す様子が見られた。

・その他エピソード（画像などを含めて）

学校に帰着後、全員で集まり「指令」によって、カメラで撮影した画像やクイズの答えなどをTV画面に映して交換し合った。ピントのぼけた写真も多くあったが、そこも初めての「旅」の面白さ、自分たちだけの力でやり遂げたことに意味のある秋の遠足であった。

